

“地域コミュニティの一員”になりに来る地域協働の仕組みづくり

**域外大学生による地域の一員としての活動を促す
「週末住人モデル」の構築**

2023.02.25/26

STACON EAST 2023春 in 仙台・青森

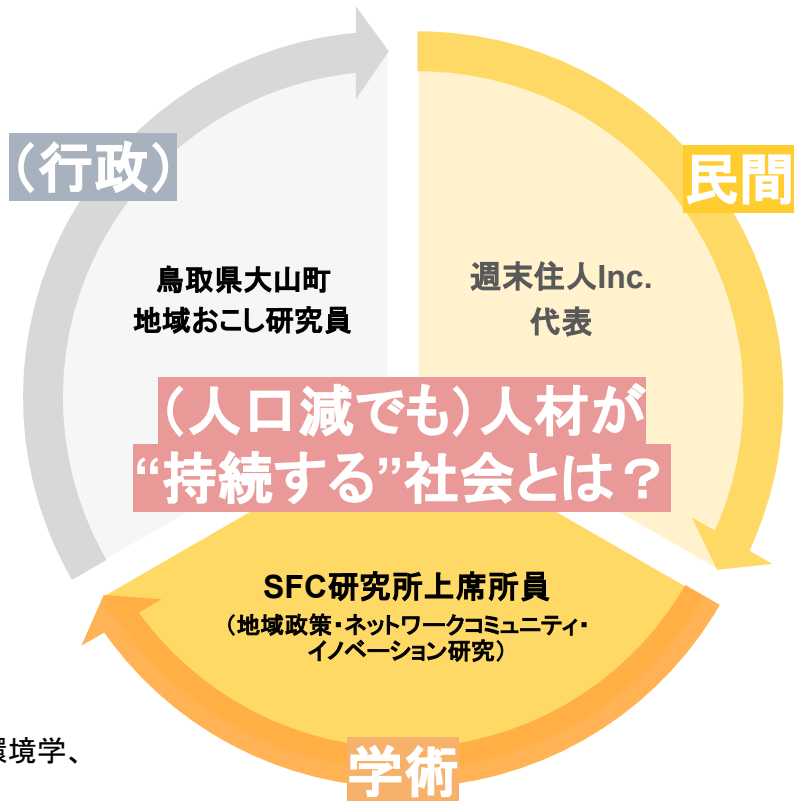
**SFC研究所上席所員 | 週末住人Inc.代表
松浦 生 (まつうら いくる)**



1997年1月19日 東京都日野市生まれ(26歳)
東京賢治シュタイナー学校 6期生
公立鳥取環境大学環境学部卒(植物生態学)
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程修了

【趣味】釣り、料理、DIY、サッカー、読書 など

【関心分野】社会イノベーション、組織経営、コミュニティ、環境学、生態学、教育、政治、まちづくり、芸術文化 など



活動の紹介

学部生時代からの実践

■もちがせ週末住人(週末住人モデル1.0)

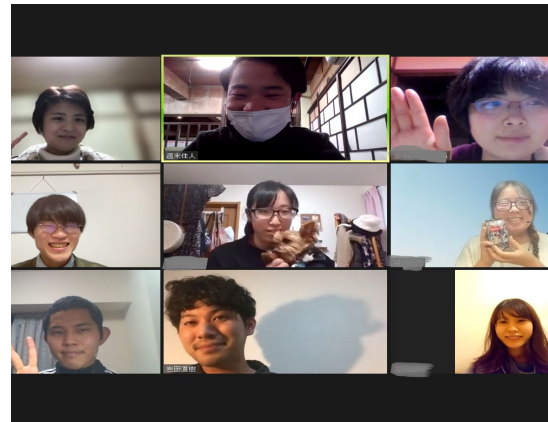
鳥取市用瀬町(人口約3,300人)で2016年から実施。近隣大学生が週末(一部は毎日)に居住し、「週末住人の家」を民泊施設として運営することで、全国各地から大学生の滞在受入れを行っている。コミュニティメンバーは約140名(2022年4月現在)で、9割は学生時代から継続的に関わっている。約40名が近隣在住、約100名は県外在住となっており、集落行事や地域行事への参加や、自主プロジェクトの企画回数の累計は100回を超えている。



集落への参加／地域イベントの参加／プロジェクト企画



交流イベントの実施



オンラインコミュニティ

地域おこし研究員としての実践

■だいせん週末住人(週末住人モデル2.0)

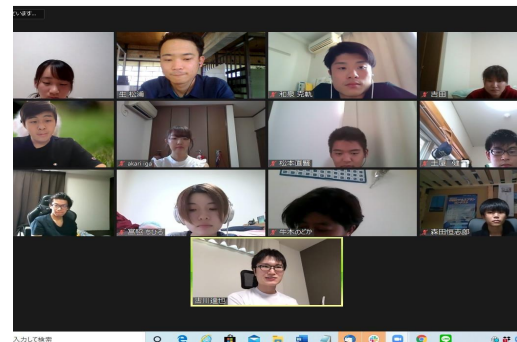
鳥取県大山町で2019～2021年にかけて実施。大学からの距離が遠く、近隣に住んでいる大学生が居ない地域での実施のため、半年～1年のプログラム型で各期の参加者を募集し、地域づくりに関わる人や組織との関係づくりと、参加者それぞれの興味関心に基づいたプロジェクトづくりを支援している。1期10名、2期6名、その他途中参加を合わせて累計24名が参加し、子ども食堂スタッフ、コミュニティカフェでの一日店長、小中学生の学習支援、ドローンによる映像撮影などの活動を行った。



集落への参加／地域イベントの参加／プロジェクト企画



交流イベントの実施



オンラインコミュニティ

現在の実践

週末住人Inc.の事業

What We Do

▼事業紹介はこちら



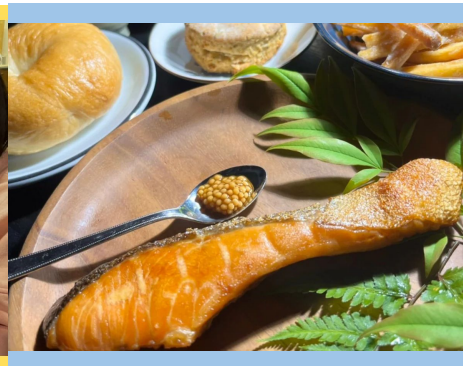
人口最少県・鳥取を拠点に、
Z世代と地方地域のポテンシャルを掛け算することで、
“だれもが自分と社会の未来にワクワクできる日常”を共創する企画会社です。



地域とつながる
拠点・交流事業



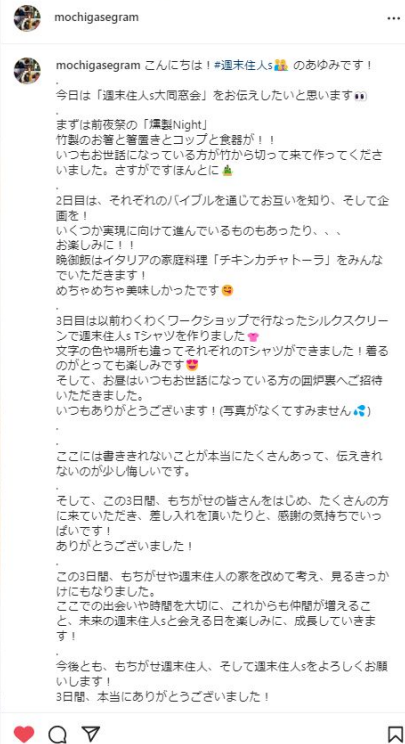
鳥取とつながる
Z世代コミュニティ事業



食を通じて鳥取と
つながるEC事業



Z世代の視点を活かす
受託・協業事業



交流イベントの開催



インタビューとアウトプット

「大学生の便利屋さん」 代表者: 清家 史哉

家の片付け 力仕事 その他雑用

コロナ対策は
万全です!

どんな内容でも
30分 500円

私がお手伝いします! お困りごとはまず相談!

依頼先 依頼時の必要事項

もしくは

①依頼内容
②希望する日時(あれば)
③お名前、住所、電話番号



mochigasegram

mochigasegram こんにちは! #もちがせ連来住人s👤の清家です!
今回は私が用務で取り組むプロジェクト「まごのてせイケくん」について紹介します。
11月の離滞在するのですが、何か地域に還元したいという思いがありました。そこで、地域密着型の便利屋をすることにしました。さまざまなお手伝いをし、交流することで用務を元気にしたいと思っています。
また、鳥取県内であれば出張します。要相談ですが、依頼はQRコードからフォーム
(<https://forms.gle/EmhFbtG2oZ9mJ9>)へ行くかチャットの電話番号へおかけください。どうぞ、まごのてをよろしくお願ひします!

#もちがせ連来住人の家 #もちがせ連来住人 #もちがせ連来住人s
#もちがせワーホリ #とっとりワーホリ #ふるさとワーホリ #鳥取 #tottori #用務 #大学生 #もちがせチャレンジ #チャレンジ #民泊 #民泊体験 #宮城交際 #田舎暮らし #暮らし #travellocal #localstyle #便利屋 #なんでも屋 #離来人口 #離来人口案内所
福地渥み・66遊樂前

11月 10, 2020

genius_azu · 他36人が「いいね!」しました

コメントを追加...

投稿する

プロジェクトづくり



クリエイティブなスキルを活かす

PowerPoint プレゼンテーション

2 / 30 | - 100% + | [] [x]

「からだで大山をひょうげん?!」
～大山賛歌をとおしたひょうげんかつどう～
8月11日

【きょうのよてい】

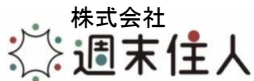
9:00-10:00 みんななかよくなるの会
9:30-12:30 からだで大山をひょうげん
12:30-14:00 お昼きゅうけい
14:00-15:00 水ふうせん大会準備
15:00-16:30 水ふうせん大会!
16:30-17:00 もぐもぐタイム
17:00-17:30 1日目のふりかえり

さいこうの夏休みにしよう!!

これからはじまるぼうげんに
おらワクワクすっぞ!

通未住人
渡邊紗恵子
大野颯馬
奥田 智

マーケティング・教育コンテンツ開発などの専門性を活かす



常に住んでいなくても
 地域をおもしろくする仲間になれたり。
 一つの地域にしばられずに
 仕事や暮らしを楽しむことができたり。

「週末」に象徴される余暇時間に
 「住人」すなわち地域の一員になる。

そんなライフスタイルを

「週末住人」と名づけ、

人口最少県・鳥取から、

Z世代の豊かな生き方を探究する

社会実験をしていきます。

2016.4	<ul style="list-style-type: none"> 鳥取市用瀬(もちがせ)町で、地域住民とまちづくり団体用瀬コミュニティまちづくりを設立し、岩田直樹(現共同代表)が事務局長に就任
2016.8	<ul style="list-style-type: none"> 岩田と松浦生(現代表)が、用瀬町用瀬で空き家を借り、大学の授業がない週末に住人として住む活動をスタート
2017.1	<ul style="list-style-type: none"> 岩田の個人事業主として、旅館業営業許可を取得し体験と民泊もちがせ週末住人の家をオープン
2017.7	<ul style="list-style-type: none"> 総務省「ふるさとワーキングホリデー」参加者受け入れ事業をスタート 全国に広がるZ世代コミュニティ「週末住人コミュニティ」事業をスタート
2017.10	<ul style="list-style-type: none"> 女性専用の宿泊棟「体験と民泊もちがせ暮らしの旅人」をオープン
2018.4	<ul style="list-style-type: none"> 深沢あゆみ(現共同代表)が埼玉県から移住し、新卒で鳥取市内IT企業に勤めながら、女性棟の寮母としての活動をスタート
2019.4	<ul style="list-style-type: none"> 松浦が鳥取県大山町の地域おこし研究員に就任 Zoomなどを活用したコミュニティ内のオンラインイベントをスタート
2019.8	<ul style="list-style-type: none"> 鳥取県大山町で「だいせん週末住人」事業の実証実験をスタート
2020.3	<ul style="list-style-type: none"> 折田怜美(現共同代表)が用瀬町に移住 「もちがせ週末住人の家」を現在地に移転し、コミュニティスペースとしての運営をスタート
2020.4	<ul style="list-style-type: none"> 岩田が東京に移住し、Webマーケティング関連企業に勤めながら、関東支部会等のコミュニティ運営を拡充
2021.11	<ul style="list-style-type: none"> 「株式会社週末住人」を設立

研究として

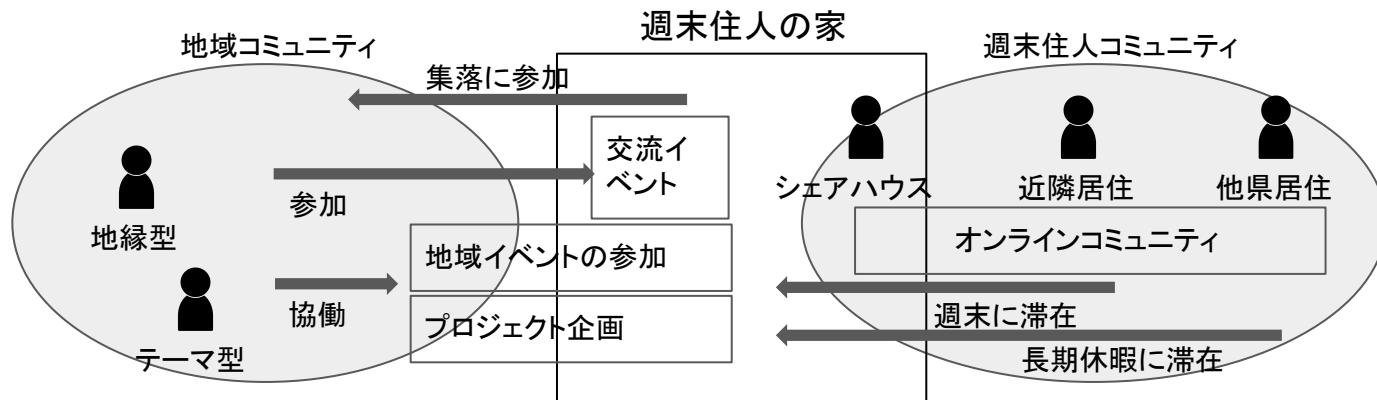
1. 週末住人モデル

■目的

人口減少により地域の担い手不足が深刻な地域において、地域外の若者が余暇時間(週末など)に地域に滞在し、地域の一員として活動する(住人となる)ことを支援することで、**若者と地域の持続的な関係づくりを実現**することを目的とする。

■概要

地域コミュニティに根差した滞在拠点「週末住人の家」を起点に、オンラインを含む若者コミュニティを形成し、**関わり方の多様性**を担保することで、若者の関係人口を持続的に創出する仕組み。



2. 背景と課題

■背景

過疎地域では、特に進学流出によって **若年層が著しく少ない人口構造** となっている。それに伴って、地域内の子どもたちの将来のロールモデルとなるような若者との交流機会、地域活動に若者が参画する機会、企業や組織が若者と関わり採用や事業創造をする機会など、地域の将来を見据えて重要な **若者との接点となる様々な機会の損失** が起きている。

一方で、地方出身者のUターン希望率は概ね7~8割と非常に高い水準となっているなど、故郷と感じられる場所がない「ふるさと難民」と言われる人たちも含め、**地方地域に関心を持ち学生時代から様々な活動を行う若者は増加している。**

■課題

若者の存在が地域づくりや町内の子どもたちのキャリア教育、次世代人材の獲得など、地域の側にとって重要であり、一方で若者の側も地域での活動に意欲的な人が増えているにも関わらず、「受入れ疲れ」や「過度な期待・意識ギャップ」など **持続的な関係づくりの課題** や、「移動・滞在コスト」「コーディネーター設置」など **持続的な仕組みづくりの課題** がある。

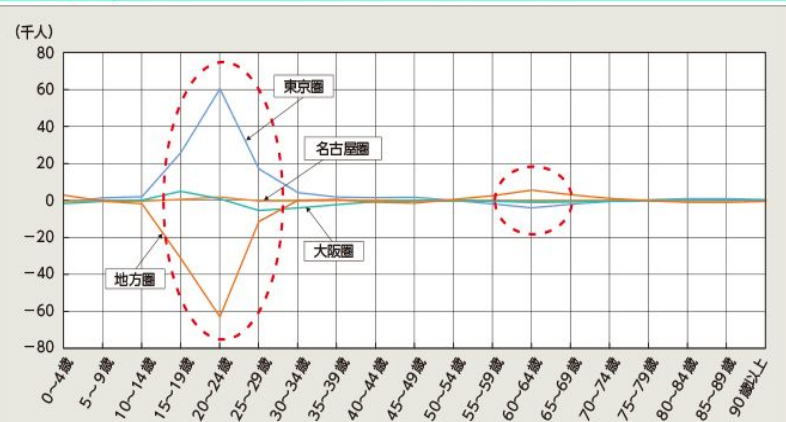
社会的背景

■地方圏における進学に伴った若年層の著しい社会減

地方圏では15～19歳,20～24歳が著しく流出

移動理由で最も多いのは進学

図表 1-1-23 三大都市圏・地方圏の年齢別転入超過数の状況 (2014年)



資料：総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告年報」

(注) 上記の地域区分については以下のとおり。

東京圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

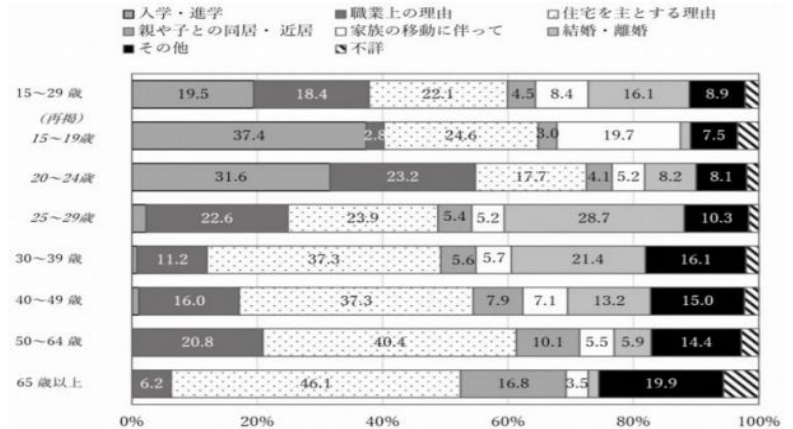
名古屋圏：岐阜県、愛知県、三重県

大阪圏：京都府、大阪府、兵庫県、奈良県

地方圏：三大都市圏（東京圏、名古屋圏、大阪圏）以外の地域

出典：国土交通省 HP

<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/15/backdata/01-01-01-023.html>



年代別現住地への移動理由

＜出典＞国立社会保険・人口問題研究所(2016)

Next...

都道府県ごとの進学傾向は？

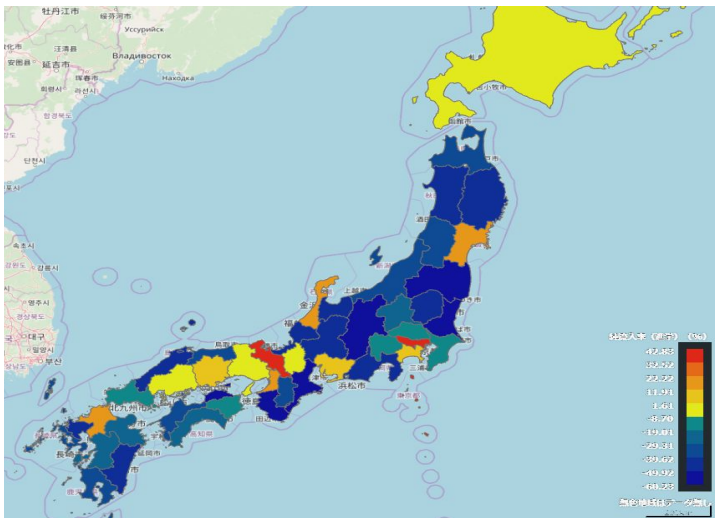


社会的背景

■特に過疎地域には大学生がまったく「居ない」

進学による流入出率は 圏域で傾向

東北・北関東・山陰・南九州などで流出が著しい



文部科学省「学校基本調査」(2018)に基づいた REASAS データより作成

「すべての進学」データ: 純流入 = 流入 - 流出の人口割合を算出

<https://reasas.go.jp/employ-education-locality-academic/#/map/5.333900736553437/37.63945604314383/136.26975799168648/31/3/1201/1/0/2018/3/1/10/0/>

進学率の地域間格差

図-2 大学進学率の地域間格差



流出が著しい都道府県を基礎自治体レベルで見ると **過疎地域には大**
学生が全く「居ない」ことが予想される

Next...

この背景での研究者の実践



2. 背景と課題(再掲)

■背景

過疎地域では、特に進学流出によって **若年層が著しく少ない人口構造** となっている。それに伴って、地域内の子どもたちの将来のロールモデルとなるような若者との交流機会、地域活動に若者が参画する機会、企業や組織が若者と関わり採用や事業創造をする機会など、地域の将来を見据えて重要な **若者との接点となる様々な機会の損失** が起きている。

一方で、地方出身者のUターン希望率は概ね7~8割と非常に高い水準となっているなど、故郷と感じられる場所がない「ふるさと難民」と言われる人たちも含め、**地方地域に関心を持ち学生時代から様々な活動を行う若者は増加**している。

■課題

若者の存在が地域づくりや町内の子どもたちのキャリア教育、次世代人材の獲得など、地域の側にとって重要であり、一方で若者の側も地域での活動に意欲的な人が増えているにも関わらず、「受入れ疲れ」や「過度な期待・意識ギャップ」など **持続的な関係づくりの課題** や、「移動・滞在コスト」「コーディネーター設置」など **持続的な仕組みづくりの課題** がある。

3. リサーチクエスチョンと仮説

RQ1.

(受入れ疲れや期待値ギャップを生まない)持続的な関係づくりのプロセスとは？

仮説1.

地域の方との&若者同士のコミュニケーションを通じて、関係人口となる若者が「地域の一員」として活動するに至るには、意識と行動に段階的発展があるのではないか？

RQ2.

必要な仕組みは何か？
その仕組みを持続的に運用するためには？

仮説2.

基盤として①滞在拠点、②移動支援、③コーディネート機能があり、持続的運用のためには、「自発的協力」を促すコミュニティづくりが重要ではないか？

検証

先行実践「もちがせ週末住人」からモデル構築をして、鳥取県大山町で実装し有効性を実証

4. 持続的な関係づくりのプロセス(結果1)

大学生の行動には、【参加段階】→【自発的参加段階】→【周辺の役割行動段階】→【主体的活動段階】という4つの段階があり、段階的に関係づくりを支援することで、「地域の一員としての活動」が生まれた。

(情報獲得のパターン)	（行動内容の パターン）	コーディネーターの介入が必要		コーディネーターの役割は限定的	
		A 偶然ばったり・ コーディネーター に同行	B コーディネーター が提案・直接紹介	C 地域アクターや他 の参加者の紹介	D 自ら希望して 連絡・企画
外的な成果はない	a 【一般に開かれた地域の「場」への訪問】	Aa	Ba	Ca	Da
	b 【地域に開かれたイベント・地域行事への参加】	Ab	Bb	Cb	Db
	c 【地域コミュニティ内・アクター間の会議等への参加】	Ac	Bc	Cc	Dc
	d 【特定の地域アクターの訪問】	Ad	Bd	Cd	Dd
外的な成果がある	e 【地域アクターの仕事・企画の手伝いや体験/他の参加者の活動サポート】	Ae	Be	Ce	De
	f 【自身の興味を基に地域の場でイベント/プロジェクトを企画実行】	Af	Bf	Cf	Df

参加段階のみを繰り返すのではないので「受入れ疲れ」が生じにくく、一方で最初から主体的活動段階を求めるわけでもないで「期待値ギャップ」も生じにくい。

また、多様な段階の大学生がメンバーとなる「週末住人コミュニティ」をつくることによって、個々人の関り度合の選択肢を担保しながら、全体としては持続的に地域の一員としての活動を創出できる。

5. 必要な仕組みと持続的運用(結果2)

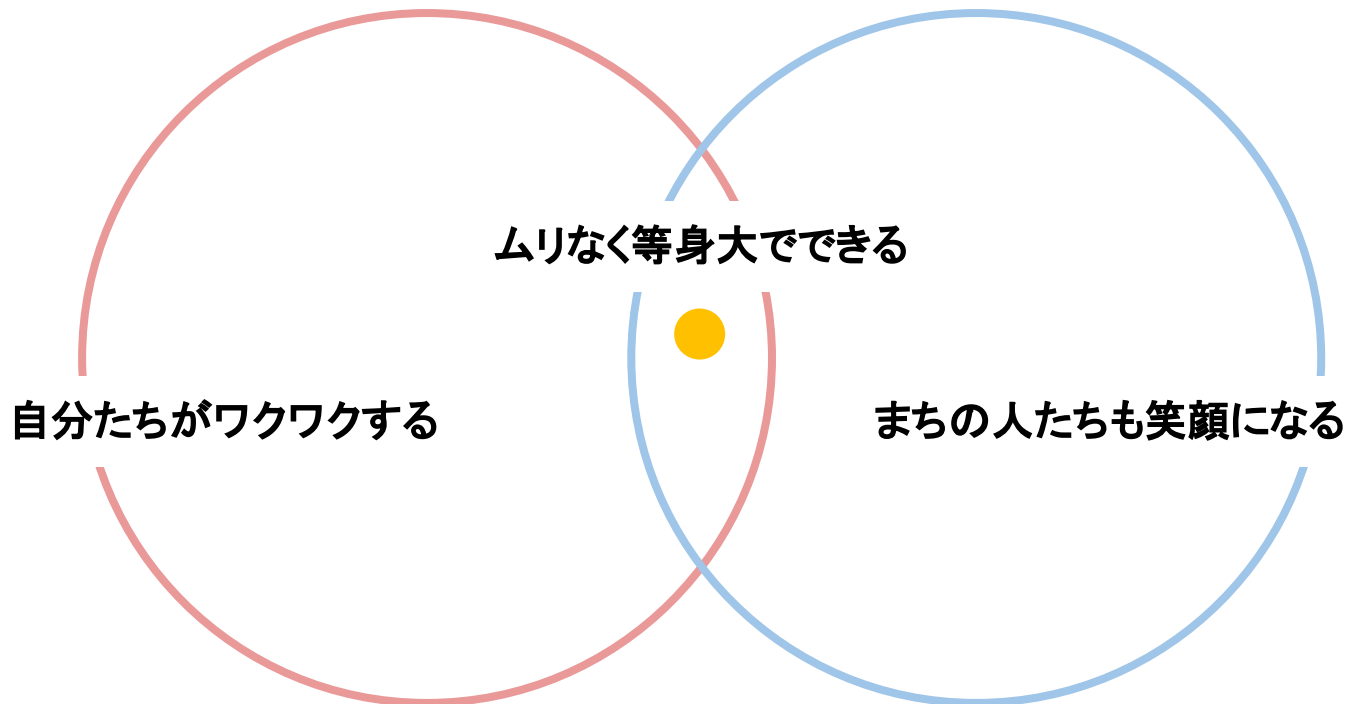
①滞在交流拠点、②移動支援、③コーディネート機能 が必要で、特にコーディネート機能には〈A〉地域キーパーソンの紹介、〈B〉若者コミュニティ形成 の2つの機能が必要だった。

持続的運用のためには「自発的協力」が重要だった。特に若者コミュニティでの 移動や滞在コストのシェア、地域キーパーソンによる自発的なコーディネート が仕組みの持続性を向上させた。

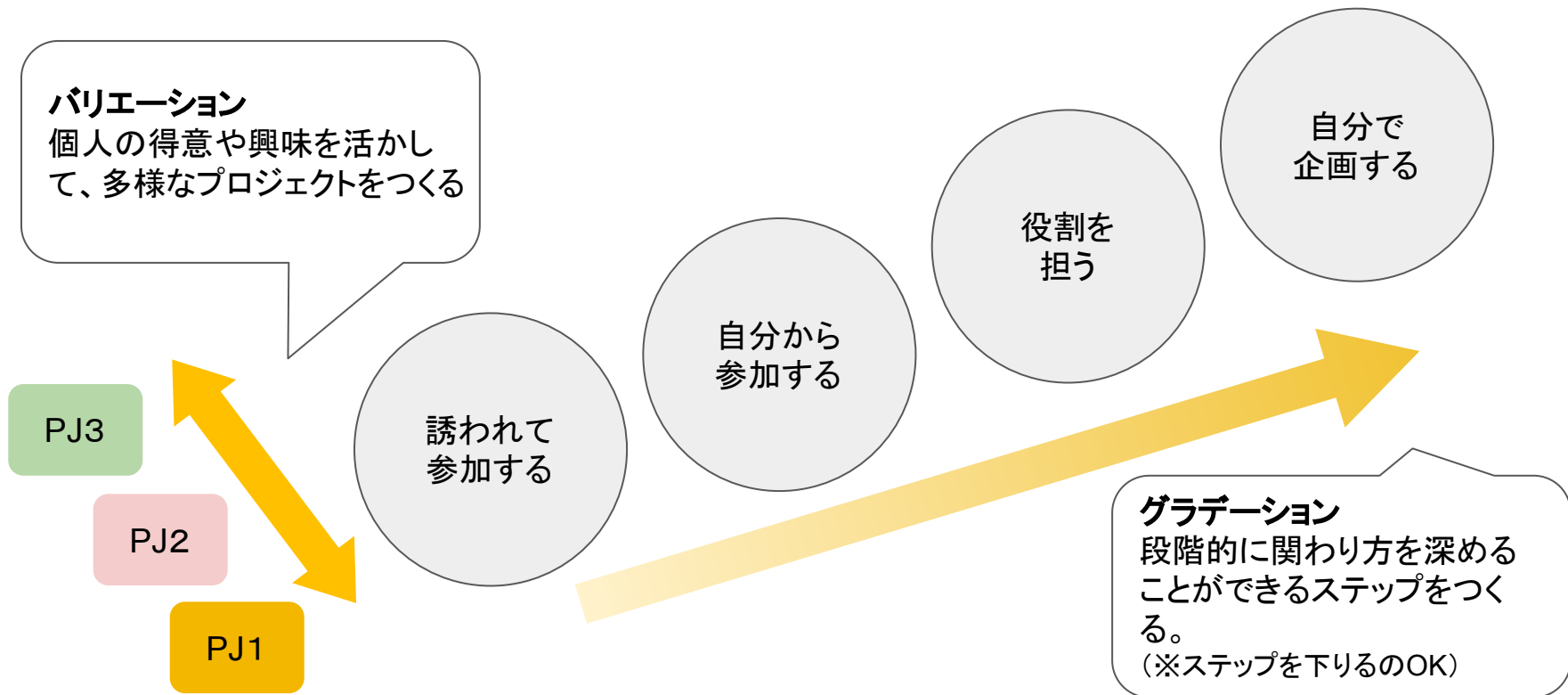
	週末住人モデル1.0「もちがせ週末住人」	週末住人モデル2.0「だいせん週末住人」	週末住人モデル3.0「週末住人Inc.」
タイプ	学生／居住型	学生／プログラム型	若手社会人／プロジェクト参画型
地域条件	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取市用瀬町 ・人口約3,300人 ・集落と徒歩圏内の地域コミュニティ 	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県大山町 ・人口約16,000人 ・地域づくり団体や事業者などとの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県全域 ※用瀬町/大山町拠点 ・人口約5万6千人 ・事業者などと実施
仕組①: 拠点	シェアハウス・体験型民泊	ホームステイ・空き物件	※実証中
仕組②: 移動	総務省ふるさとワーキングホリデー、鳥取県ワーホリ支援事業を一部活用	交通費補助、町内移動支援	※実証中
仕組③: コーディネート機能	コミュニティコアメンバー・地域キーパーソンが協働	地域おこし協力隊・地域キーパーソンが協働	※実証中
機能A: 地域キーパーソンの紹介	集落に参加／シェアハウス居住者を中心に関係性を維持・発展させ、生活の中で紹介	動機に基づいて、キーパーソンに初期段階で紹介し、関係づくりを継続的に支援	※実証中
機能B: 若者コミュニティ	定期的な交流イベント／オンラインイベント	キックオフ宿泊／オンライン交流会	※実証中

最後に
分かりやすくかみ砕くと...

- ①「地域」という主語ではなく、目の前の「人」と楽しく関わる。
- ②「巻き込み力／巻きまれ力」を使い分け、“手伝う”ではなく“一緒にやる”。
- ③成果よりも、一緒にやるプロセスを大切にする。



関わり方にバリエーションとグラデーションをつくり、自分で選べるようにする



Appendix

事業紹介(詳細)

週末住人Inc.の拠点

Where We Act

鳥取県西部に位置する「大山(だいせん)町」と東部の「鳥取市用瀬(もちがせ)町」を主な拠点とし、全国のZ世代とつながりながら、鳥取県内各地で活動しています。

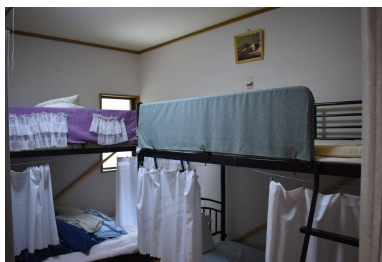
【本社オフィス】
TORICO



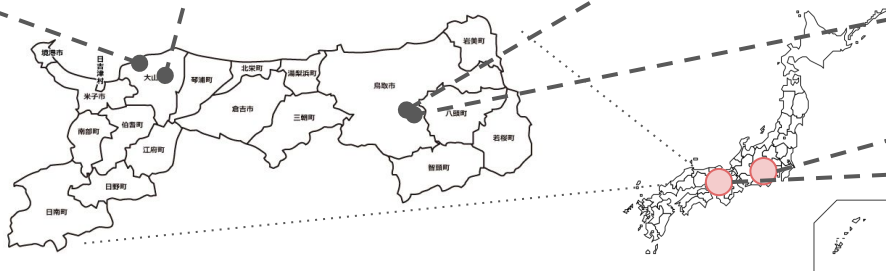
【宿泊・ワークスペース】
シゴト場カケル



【宿泊拠点】
もちがせ暮らしの旅人



【コミュニティスペース】
もちがせ週末住人の家



關東支部会

関西支部会

【地域とつながる拠点・交流事業】もちがせ週末住人の家

空き家2軒をDIYでリノベーションし、宿&コミュニティスペースを運営。
地域の暮らしに溶け込む中長期滞在をコーディネートし、
県内外のZ世代がいつでも“ただいま”と帰れる場所を目指しています。



県内学生の
居場所づくり



食事交流会
「週末なべ部」の開催



ふるさとワーキングホリ
デーの受入れ



大学のゼミ合宿などの
コーディネート

コミュニティの
紹介はこちら▼



【鳥取とつながるZ世代コミュニティ】週末住人コミュニティ(週末住人s)

「ただいまと帰れる場所とつながりをシェアする」をコンセプトに、
滞在経験者を中心とした会員制のオンライン×リアルコミュニティを運営。
社会人は「ゆる会員／なかま会員(月額1,000円)」と関わり方を選ぶことができ、
学生会員はいずれの関わり方をすることもできます。



拠点シェア
(もちがせ週末住人の
家／だいせん週末住人の
家・TORICO)



プチ定期便
(エモボ)



オンライン×リアルの
コミュニティイベント
(遠くdeさけ部／遠くdeトーク
／週末〇〇部／支部会／同
窓会)

©SHŪMTSU-JYŪNIN Inc. 2022



スキルシェア
(エモワクPJ)



次世代の応援
(みんなの貯金箱)

購入サイト・SNS
はこちら▼

【食を通じて鳥取とつながるEC事業】 鳥取エモボックス(エモボ)

～ステキな鳥取を発見！好奇心くすぐる食の宝箱～
をコンセプトに、鳥取の美味しいものを発掘して全国にお届けし、
鳥取ファンを増やすECサービスです。



鳥取の土曜日午後の“カラフル”ティータイムセット

大山スマイルファームさん



中国地方最高峰
大山(だいせん)の
麓で、有機野菜や
ハーブを栽培し、
その加工品の製造と
販売をされています

魔法のベジパンケーキ



卵と牛乳でOK!
作り方はパッケー
ジ裏面に10
分で簡単に
できちゃい
ますよ～

カラフル
スノーボール
クッキー



スマイル
ファームさんの
ピンツパンパを
使用!

奇跡の
コラボ!

スマイル
ファームさんの
有機生薬を
使用!



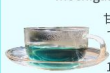
ジンジャー
パウンドケーキ

takemurateiさん



鳥取市用瀬町で、
週末限定で「身体に優
しい」をコンセプトに
したおやつやランチの
おしゃれなカフェをさ
れています

オリジナルブレンドハーブティー "mochigase blue"



甘いので砂糖なし
でOK!4～5分蒸
らしてねよ
1回で結構な量が
飲めますよ!

お家でしっぽり芳醇道楽セット

燻製道楽

：青木利晴さん



湯梨浜

海晴館
：吉村奈央美さん



好みの肴を作り続けて早20年。倉吉市内の
こじんまりとしたお店で、「ベストなおい
しさ」の燻製をその場で堪能できます。

国・地元産を中心に、素材で身体に優しい
パンやスイーツ溢れる、湯梨浜町のパン屋
さん。北欧テイストの店内もポイント!

優勝セット

桜チップ×二十世紀
梨の枝チップで燻製



燻製と甘みの
絶妙感

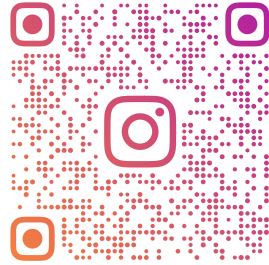


燻製器油が包み込む
つぶつぶマスタード

大山こむぎ100%
使用!



発酵調味料
"無垢"を感じて



OISHII_EMO_BOX



【Z世代の視点を活かす受託協業事業】 エモワクプロジェクト

事業の詳細はこちら▼

Z世代(週末住人s)の視点やスキルを活かして
地域の事業者の困りごとと解決や、新たな挑戦をサポートすることで
次世代のためのサービス・仕組みづくりを進めるとともに
社会人ならではの仕事を通じた鳥取との関わり方をデザインします。



【行政】若者視点の働く
&暮らす魅力発信のため
の動画・記事制作



【大学】地域活動のきっかけ
づくり・キャリア支援の仕
組みづくり



【民間】若者と協働した
イベント企画・ブランディ
ング支援